

北海道「女性社長」分析調査（2024 年）

道内企業の女性社長比率は 7.5%

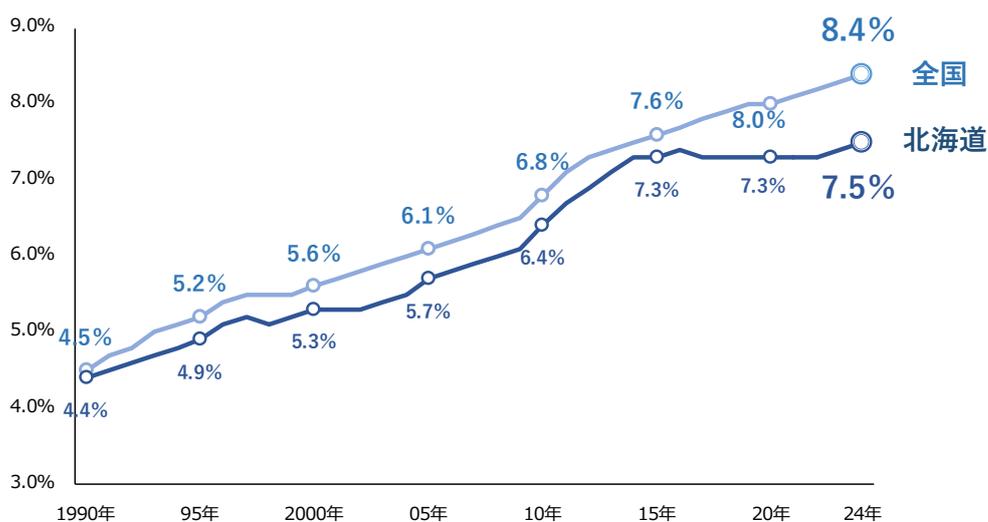
過去最高も依然 1 割を下回る

～ 止まらぬ高齢化、4 人に 1 人が「75 歳以上」～

政府は“2020 年代の可能な限り早期”を目標とした「女性管理職 30%目標」に加えて、第 5 次男女共同参画基本計画では 2025 年までに「東証プライム市場上場企業の役員に占める女性の割合」を 19%とすることを目指している。その年限が刻々と迫ってくるなか、「女性版骨太の方針 2024」では次世代を担う女性リーダーの育成に焦点が当てられている。しかし、その一端となる女性管理職の平均割合はわずかに上昇しつつも低水準を脱しておらず、目標を達成できる見込みは現時点では立っていない。

帝国データバンク札幌支店では、北海道内企業の女性社長比率について調査を実施した。2024 年 10 月時点で 7.5%となり、前年の 7.4%を上回り 2 年連続で上昇を続け、過去最高を更新した。統計として遡れる 1990 年（4.4%）から上昇を続けているものの、そのスピードは緩やかで 1 ケタ台にとどまっている。

女性社長比率（1990-2024年）



- 帝国データバンク札幌支店は自社データベースをもとに、全国約 119 万社の事業会社を対象に女性が社長(代表)を務める北海道企業について分析を行った。
- 集計対象は「株式会社」「有限会社」「合同会社」「合名会社」「合資会社」

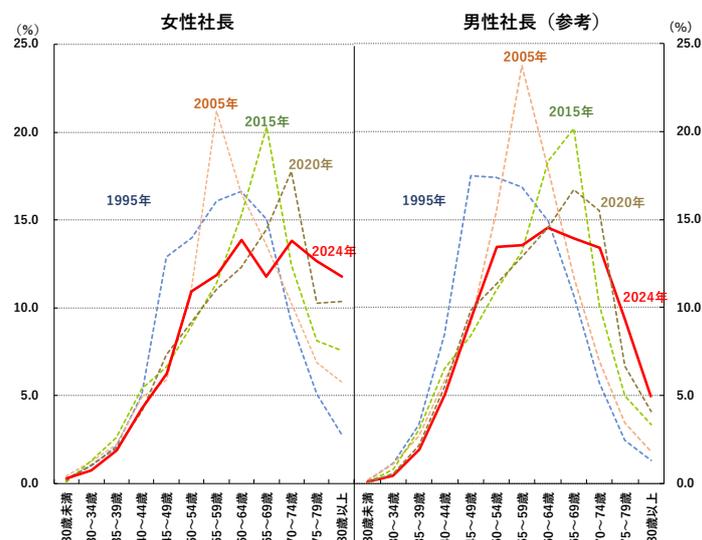
1. 年齢構成比、女性社長は「60～64歳」が13.9%で最多 75歳以上が4分の1を占める

女性社長を年齢構成比で見ると、「60～64歳」が13.9%で最も高かった。次いで「70～74歳」が前年（16.4%）から低下したものの、13.8%で続いた。「75～79歳」は12.7%で前年（10.8%）から上昇した。現在は1947年から1950年生まれの「団塊の世代」が75歳以上へ徐々に移行する期間であることが影響していると考えられる。

「75歳以上」に絞ると24.5%となり、2020年時点（20.6%）から3.9pt上昇していた。社長の高齢化に歯止めがかかっていない実態が浮き彫りとなった。

男性社長では「60～64歳」が最も多く、次いで「65～69歳」が続いた。また、「75歳以上」は14.2%となり、女性社長ほど割合は高くなかった。

女性社長の年齢構成比 経年変化

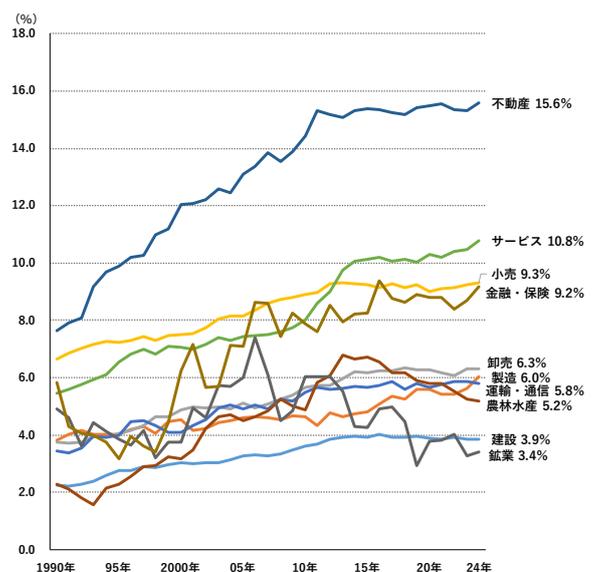


2. 業種別では「不動産」が15.6%でトップ、「建設」「鉱業」は依然として低水準

業種別に女性社長の比率をみると、「不動産」が15.6%でトップだった。続く「サービス」（10.8%）や「小売」（9.3%）、「金融・保険」（9.2%）といった「BtoC」業種を大きく引き離し、群を抜いて高い水準が続いている。

その他の6業種は全体（7.5%）を下回った。なかでも「建設」は9年前の2015年と比較しても横ばいの3.9%で低水準が続いており、34年前の1990年（2.2%）と比べても1.7ポイントの増加にとどまっている。

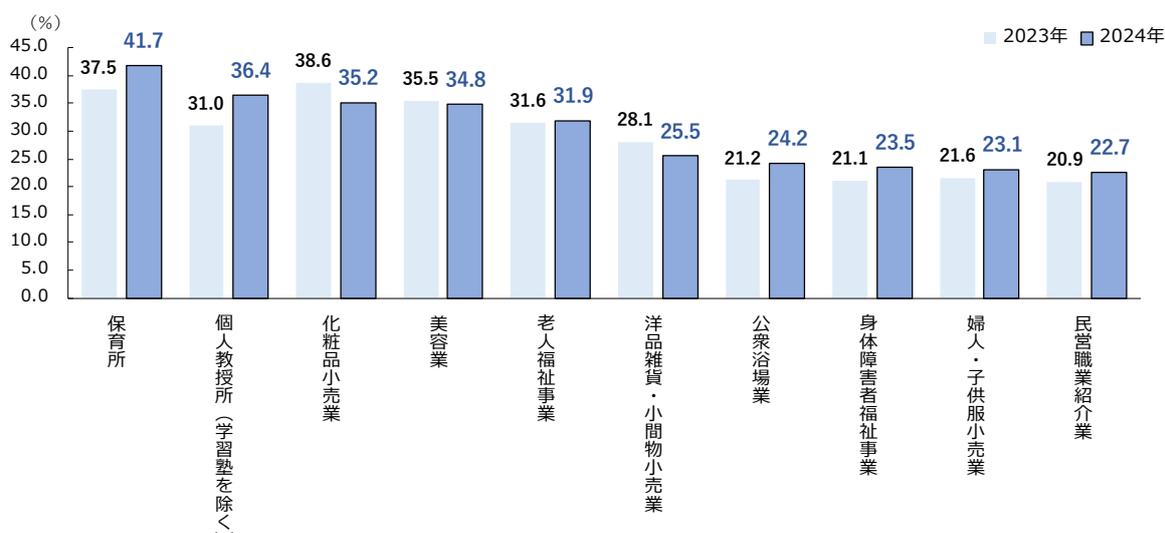
女性社長比率 業種大分類別



3. 業種細分類別では「保育所」がトップ、美容関連や社会福祉関連が続く

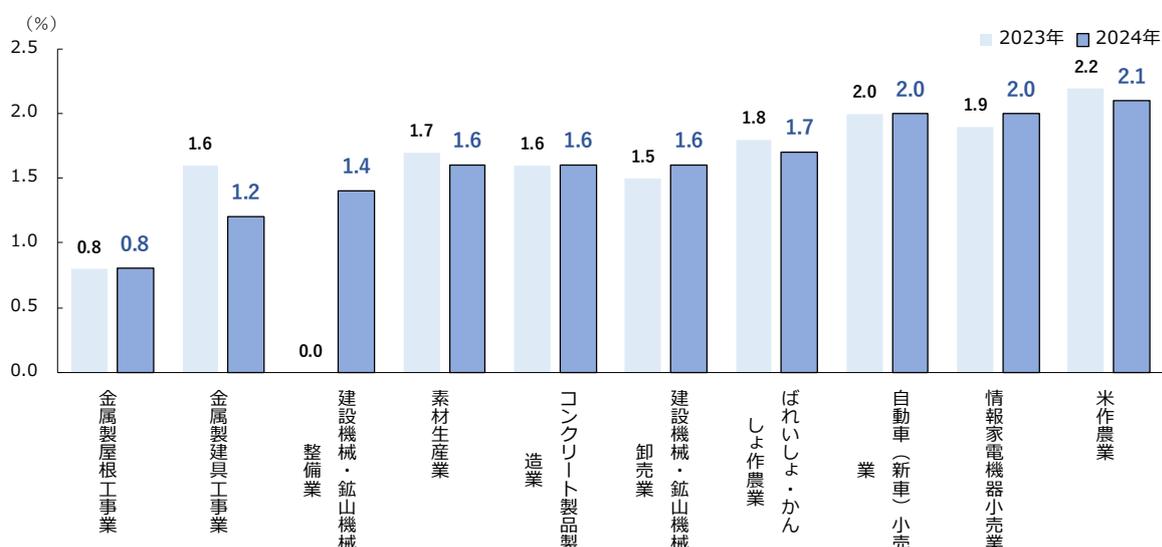
業種細分類別でみると、「保育所」が41.7%で最も高かった。唯一4割を超え、前年から4.2pt上昇した。次いで「個人教授所(学習塾を除く)」(36.4%)が続いた。「化粧品小売業」(35.2%)、「美容業」(34.8%)といった美容関連業種や、「老人福祉事業」(31.9%)、「身体障害者福祉事業」(23.5%)といった社会福祉関連が続いた。

女性社長比率 業種細分類別(上位10業種)



同様に業種細分類別で最も低かった10業種をみると、「金属製屋根工事業」(0.8%)を筆頭に「金属製建具工事業」(1.2%)と続き、「建設機械・鉱山機械整備業」(1.4%)となるなど建設関連が下位を占めた。

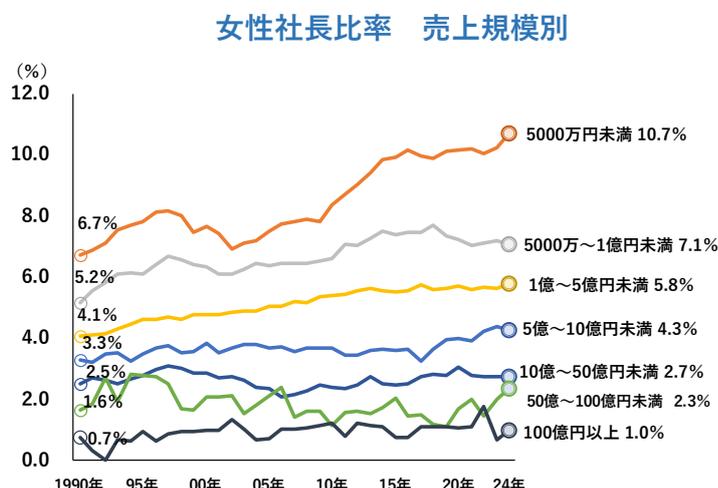
女性社長比率 業種細分類別(下位10業種)



4. 売上規模別、「5000万円未満」が10.7%でトップ 売上規模に比例して女性社長比率は低下

売上規模別の女性社長比率をみると、「5000万円未満」が10.7%となり最も高かった。1990年当時から、他区分と比較して高かったものの、2024年までの上昇幅(+4.0pt)も最も大きかった。特に2010年以降は、大幅な上昇がみられた。

その他、「5000万～1億円未満」(7.1%)、「1億～5億円未満」(5.8%)など、売上規模が上がるほど女性社長比率は低くなる傾向がみられた。なかでも、「100億円以上」は1.0%にとどまり、1990年から0.3ptの上昇にとどまった。



5. 出身大学別では「北海道大学」がトップ、上位20校中、前年比増は7校

女性社長の出身大学別では、「北海道大学」が前年比2社増の15社でトップだった。以下、「藤女子短期大学」(14社)、「札幌国際大学短期大学部」「北海学園大学」(各13社)と続いた。国立大学では「北海道大学」のほか、「北海道教育大学」(11社)、「小樽商科大学」(10社)となり、道外の大学では「日本大学」(10社)、「上智大学」(8社)、「聖心女子大学」(5社)がランクインした。

女性社長社数 出身大学別

順位	大学名	(社)	前年比(社)	(社)
1	北海道大学	15	+2	(13)
2	藤女子短期大学	14	±0	(14)
3	札幌国際大学短期大学部	13	±0	(13)
3	北海学園大学	13	+2	(11)
5	北翔大学短期大学部	12	-1	(13)
5	北星学園大学短期大学部	12	+3	(9)
5	藤女子大学	12	-2	(14)
8	北海道教育大学	11	±0	(11)
9	北海道武蔵女子短期大学	10	±0	(10)
9	小樽商科大学	10	+1	(9)
9	日本大学	10	+2	(8)
12	札幌大学	9	±0	(9)
13	札幌大学女子短期大学部	8	+1	(7)
13	上智大学	8	+2	(6)
15	北海道文教大学短期大学部	7	±0	(7)
16	道都大学短期大学部	6	±0	(6)
16	函館短期大学	6	±0	(6)
16	酪農学園大学	6	-1	(7)
19	光塩学園女子短期大学	5	±0	(5)
19	聖心女子大学	5	±0	(5)

※ () 内は2023年調査時点の人数

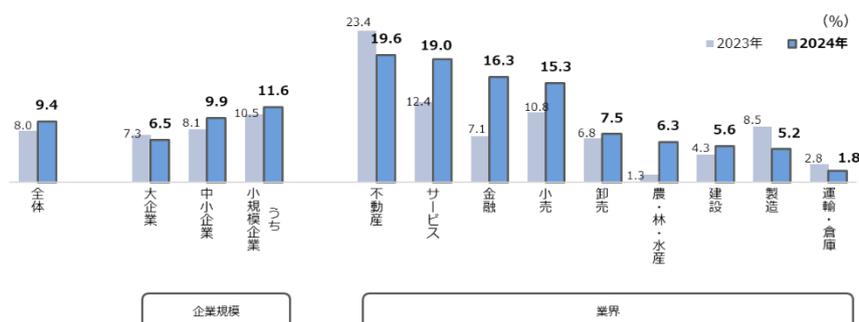
今後の見通し：小幅な上昇が続くと見込まれるものの、数値目標ありきの人材登用に注意

2024 年の女性社長比率は 7.5% だった。5 年連続の上昇で過去最高を更新したものの上昇幅は小さく、依然として 1 割を下回る低水準にとどまった。帝国データバンク札幌支店が 2024 年 7 月に実施した「女性登用に関する道内企業の意識調査 (2024 年)」では、女性管理職の平均割合は前年から 1.4pt 上昇し、9.4% となり、2022 年と並び過去最高となったが、1 ケタ台にとどまった。いずれの調査も「過去最高ながら低水準」であり、小幅な上昇を重ねているものの、目標とされている結果には届いていないといえるだろう。

女性管理職や役員の割合など、あらゆる期間目標が掲げられているなかで、政府は女性起業家の拡大にも注力している。2023 年 5 月に経済産業省が発表した「女性起業家支援パッケージ」においては、ネットワーク構築やマッチング機会の提供のみならず、ロールモデルの創出を目的に「J-Startup における女性起業家の割合 20%」を目指すことが明記された。J-Startup はグローバル展開を見据えるスタートアップ企業に対する育成支援プログラムであり、女性が挑戦できる機運の醸成を目指した目標となっている。

こうしたユニークな取り組みに加え、人材教育の面では科学技術系の分野に長けた STEM 人材の育成も注目されている。このような、今までは女性活躍が進んでいなかった分野への着手が数多くみられるものの、数値目標の達成を目的とした登用には注意が必要だ。女性活躍は、労働力不足の解消やダイバーシティ促進による経営改善などが主な目的である。今後も女性社長や役員・管理職の割合は緩やかな上昇が見込まれるなか、適材適所の人材登用が求められる。

<参考> 女性管理職の平均割合 — 女性登用に関する道内企業の意識調査 (2024 年) より



株式会社帝国データバンク 札幌支店 情報部

【問い合わせ先】 渡辺 柳澤 松田

TEL011-272-3933 (直通)

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。